

2021 年度（令和 3 年度）

事業報告書

自 2021 年（令和 3 年）4 月 1 日

至 2022 年（令和 4 年）3 月 31 日

公益財団法人 日本ライフセービング協会
JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION
(J L A)

目 次

【公益目的事業】

- < 1 > 監視救助事業
- < 2 > 資格認定事業
- < 3 > 安全・防災教育・環境保全事業
- < 4 > 競技推進事業
- < 5 > 国際交流事業
- < 6 > 広報活動事業
- < 7 > その他の事業

【その他の事業】

- < 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

備考：表記について

- ・国際ライフセービング連盟 → I L S
- ・日本ライフセービング協会 → J L A
- ・L S → ライフセービング
- ・L S C → ライフセービングクラブ

【公益目的事業】

ライフセービングに関する公益目的事業として、海岸・プール等をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監視・救助、防災・防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行う。

< 1 > 監視救助事業

1. 監視救助業務

(1) 監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては管理監督のみを行った。ただし、今後は迅速な対応が求められることなどから都道府県協会や各加盟クラブが事業を実施する形態に順次移行していく方針である。

	海水浴場名	地区	期間
1	熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/22-8/22
2	今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/22-8/22
3	土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/17-8/25
4	小土肥海水浴場		
5	大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/22-8/22
6	乗浜海水浴場		
7	浮島海水浴場		
8	田子瀬浜海水浴場		
9	黄金崎海水浴場		
10	深田海水浴場		
11	松崎海水浴場	静岡県松崎町	7/17-8/22
12	岩地海水浴場		
13	石部海水浴場		
14	雲見海水浴場		
15	新島地区・第一前浜海水浴場	東京都新島村	8/7-8/31
16	新島地区・第二前浜海水浴場		
17	新島地区・第四前浜海水浴場		
18	新島地区・間々下浦海水浴場		
19	新島地区・若郷前浜海水浴場		
20	新島地区・羽伏浦海水浴場		

21	式根島地区・泊海水浴場		8/7-8/31
22	式根島地区・大浦海水浴場		
23	式根島地区・中の浦海水浴場		
24	式根島地区・石白川海水浴場		
25	白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	7/16-9/1
26	神奈川県協定/三浦海岸	神奈川県三浦市	7/3, 4, 10, 11 8/10-8/31
27	神奈川県協定/大浦海岸	神奈川県三浦市	7/3, 4, 10, 11 7/17-8/22, 28, 29
28	神奈川県協定/和田海岸 神奈川県協定/長浜海岸	神奈川県三浦市 神奈川県横須賀市	8/10-8/31
29	神奈川県協定/荒井浜海岸	神奈川県三浦市	8/10-8/31
30	神奈川県協定/横堀海岸	神奈川県三浦市	7/22-7/25 7/31-8/31
31	神奈川県協定/森戸海岸	神奈川県葉山町	8/10-8/31
32	神奈川県協定/一色海岸	神奈川県葉山町	8/10-8/31
33	神奈川県協定/長者ヶ崎・大浜海岸	神奈川県葉山町	8/10-8/31
34	神奈川県協定/逗子海岸	神奈川県逗子市	7/3, 4, 10, 11 8/10-8/31
35	神奈川県協定/大磯海岸	神奈川県大磯町	7/4-7/21 8/28, 29
36	神奈川県協定/御幸の浜	神奈川県小田原市	7/22-8/22
37	神奈川県協定/湯河原海岸	神奈川県湯河原町	8/19-8/31

(2) スポーツイベント (*オープンウォータースイミングやトライアスロン、水泳等) の監視とその救助を行う。

*「オープンウォータースイミング」海、川、湖など、自然の水の中で行なわれる長距離の水泳競技であり、国際水泳連盟が定める競技規則のもと国際的に統一されたルールで行われ遠泳とは異なる。「OWS」と略す。

事業内容	開催日	ライフセーバー 参加延数	会場
日本トライアスロン連合 アジアトライアスロン選手権 2021	4/23-4/15 (3日間)	41名	廿日市市パークゴルフ場 沖合
日本ボート協会東京 2020 オリンピック アジアオセアニア大陸予選	5/3-5/7 (4日間)	42名	海の森水上競技場
日本水泳連盟 OWS 委員会 伊豆大島 OWS (東京都選考会)	7/3-7/4 (2日間)	10名	大島町 OWS スイムエリア
東京オリンピック ボート・カヌースプリント競技	7/18-8/8 (22日間)	592名	海の森水上競技場

東京オリンピック トライアスロン競技	7/23-8/2 (12日間)	123名	お台場海浜公園
三重国体実行委員会 三重国体プレ大会	7/24-7/25 (2日間)	12名	尾鷲市 OWS スイムエリア
東京オリンピック マラソンスイミング競技	7/31-8/6 (7日間)	79名	お台場海浜公園
東京パラリンピック ボート・カヌースプリント競技	8/22-9/5 (15日間)	410名	海の森水上競技場
東京パラリンピック トライアスロン競技	8/25-8/30 (6日間)	72名	お台場海浜公園
日本水泳連盟 泉南 OWS 大会	10/1-10/3 (3日間)	20名	泉南市 OWS スイムエリア
日本水泳連盟 OWS 委員会 OWS 日本選手権	10/16-10/17 (2日間)	30名	須崎市 OWS スイムエリア
日本トライアスロン連合 全日本選手権	10/22-10/23 (2日間)	20名	宮崎臨海公園
日本ボート協会 全日本選手権兼全日本大学選手権	10/29-10/31 (3日間)	24名	戸田ボートコース
ワイレアカヌークラブジャパン 鎌倉茅ヶ崎横断アウトリガーカヌーレース	11/14 (1日間)	6名	鎌倉-茅ヶ崎沖合
日本マスターズ水泳協会 スプリント選手権	11/27-11/28 (2日間)	4名	千葉国際総合水泳場
千葉県水泳協会 千葉スイムフェスティバル	1/15-1/16日 (2日間)	6名	千葉国際総合水泳場
フィットネス産業協会 FIA マスターズスイミング選手権	3/12-3/13 (2日間)	6名	千葉国際総合水泳場

2. 水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート（全国パトロール統計）の集計および、レスキューレポート、疾病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2021年度においては報告海水浴場計 156 か所、たざさわったライフセーバー総数は 21,840 人、パトロール延時間は 160,331 時間であった。

	2021年	2020年	2019年	2018年
報告海水浴場	156	107	197	200
水浴客総入込数	1,904,852	1,498,088	8,289,594	9,522,415

レスキュー総数	242	289	2,128	2,362
Preventive Action	237	284	2,113	2,334
Emergency Care	5 (死亡 1) (蘇生 1) (不明 3)	6 (死亡 3) (蘇生 2) (不明 1)	15 (死亡 7) (蘇生 8) (不明 0)	28 (死亡 16) (蘇生 11) (不明 1)

	2017年	2016年	2015年
報告海水浴場	195	204	197
水浴客総入込数	8,524,042	11,727,383	11,260,363
レスキュー総数	1,776	2,276	3,163
Preventive Action	1,761	2,239	3,123
Emergency Care	15 (死亡 4) (蘇生 10) (不明 1)	37 (死亡 9) (蘇生 15) (不明 13)	40 (死亡 16) (蘇生 16) (不明 8)

3. 監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で利活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

(1) 監視救助用ユニフォーム等の配備支援

- ・対象：本協会認定資格所有者
- ・内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	196
パトロールユニフォーム半袖	298
ビーチパトロールシャツ半袖	39
プールライフセーバー半袖	3
サーフパンツ男子	422
サーフパンツ女子	156
男子水着ボクサー型 1	65
男子水着ボクサー型 2	131
男子水着ブーメラン型 1	28
男子水着ブーメラン型 2	20
女子水着トップス型 1	88

女子水着トップス型 2	30
女子水着ボクサー型 1	31
女子水着ボクサー型 2	7
女子水着ブーメラン型 1	53
女子水着ブーメラン型 2	23
ラッシュガード	81
サーフハット	0
つば付きキャップ	315
パトロールキャップ綿型	64
パトロールキャップ伸縮無型	147
パトロールキャップ伸縮有型	390

(2) 監視救助用器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：レスキューボード/チューブ/ボード用ラック、IOT 等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	57 本
レスキューチューブ	170 本
ボード用ラック	87 本
IOT 監視救助システム（神奈川県鎌倉市由比ガ浜海岸）	一式

(3) 熱中症対策用飲料水等及びつば付きパトロールキャップの配備支援

- ・協賛：大塚製薬工場（株）
- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：飲料水、ゼリー、つば付きパトロールキャップ

配備品	数量
OS-1 経口補水液	61 箇所 26,208 本
OS-1 経口補水ゼリー	61 箇所 6,332 個
つば付きパトロールキャップ	45 箇所 1,000 個

< 2 > 資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

1. 資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

*ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS（CPR+AED）の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業（相互扶助等事業）として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。以下の2種類の講習を実施する。

(1) BLS*（CPR**+AED）コース

*BLS・・・Basic Life Support（一次救命処置）心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

**CPR・・・cardiopulmonary resuscitation（心肺蘇生法）質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

(2) ウォーターセーフティ(WS*)コース

*WS・・・水辺において自身を守ることのできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

(3) 資格更新講習

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

資格名	発行数	開催数
B L S コース	1, 863	175
Water safety コース	1, 130	127

2. ライフセービングサポーター講習会の開催 ※日本財団助成事業

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

サポーター講習会	開催数	修了証発行数
B L S	42	2, 585
Water Safety	68	6, 906

3. 資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員の実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。

< 3 > 安全・防災教育・環境保全事業

1. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

(1) 臨海教育へのライフセービング指導協力

臨海教育を通じて中学生に対する安全・防災教育を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

主催	日程	会場	参加数
北区教育委員会 岩井臨海学園	中止	岩井海岸 (千葉県南房総市)	(1, 400 名)

(2) 小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けた ICT 教育プログラムの開発と実践を行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、学校によって ICT 教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと、開催形態が異なった。

主催	日程	会場	参加数
柏市立土小学校 プール実技プログラム	7月8日 7月9日	土小学校プール (千葉県柏市)	280名
羽村市立羽村東小学校 プール実技プログラム	7月15日 7月16日	羽村東小学校プール (東京都羽村市)	228名
北区桐ヶ丘中学校 ICT教育プログラム	9月21日	桐ヶ丘中学校体育館 (東京都北区)	140名
北区王子桜中学校 ICT教育プログラム	9月25日	王子桜中学校体育館 (東京都北区)	200名

(3) 海洋教育支援推進に向けた ICT 教育用プログラム開発 ※日本財団助成事業

<開発目的>

初等中等教育における海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のための ICT 教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。その上で水泳や水辺の活動に潜む危険への理解や、危機回避能力を養うための ICT 教育プログラムを軸として開発した。

<実施内容>

- ① 「e-Lifesaving」の「川編」のコンテンツ追加制作
- ② 「e-Lifesaving」を活用した安全教育プログラムの学校教育への普及

実施対象	会場	参加数	協力/連携
吉津小学校	京都府宮津市	48名	京都府 LS 協会/天橋立 LSC
宮津小学校	京都府宮津市	460名	京都府 LS 協会/天橋立 LSC
府中小学校	京都府宮津市	70名	京都府 LS 協会/天橋立 LSC
栗田小学校	京都府宮津市	73名	京都府 LS 協会/天橋立 LSC
アクラブスイミングスクール	関東5店舗	203名	金子スポーツ振興株式会社
園部小学校	茨城県石岡市	168名	茨城県 LS 協会
西新小学校	福岡県福岡市	177名	福岡県 LS 協会/新宮 LSC
九州文化学園小学校	長崎県佐世保市	25名	

(4) 学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

主催	日程	会場	参加数
足立区教育委員会 水泳事故防止研修会	中止	千住温水プール (東京都足立区)	(60名)

2. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

(1) 防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証/調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関	連携内容	成果
気象庁	2020年12月24日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより、共催事業を開催した。	(1) 2021年7月4日に港区立みなと科学館にて、『津波と、津波から身を守るためのお話』と題して、中学生以上の来場者に対し、日本ライフセービング協会所属のライフセーバーが講演を行った。 (2) 津波防災オンライン連続講演会「津波フラッグと津波から命を守るための基礎知識」に、日本ライフセービング協会として『海水浴場での津波対策や安全対策など、海水浴場で命を守るための基本』と題してオンライン講演を実施した。
<p>■気象庁ホームページ</p> <p>●津波フラッグ解説ページ http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html</p> <p>●津波防災オンライン連続講演会「津波フラッグと津波から命を守るための基礎知識」 https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/lecture.html ※令和4年3月8日（火）から順次掲載～令和5年3月末（予定）講演動画配信</p>		

3. 安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

(1) ジュニア・ライフセービング教室の開催 ※日本財団助成事業

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

主催	開催日	会場	参加数
御宿 LSC	中止	コロナウイルス感染症拡大防止対策の為	中止
鎌倉 LG	9/25, 26	材木座海岸	41名
	10/20	材木座海岸	33名
	10/24 (AM)	材木座海岸	55名
	10/24 (PM)	オンライン	9名
静波 LSC	7/24	静波海岸	14名
若狭和田 LSC	8/28	城山海水浴場	34名
宮崎 LSC	10/10	青島海水浴場	9名

(2) ジュニア・ライフセービング教室の開催に関する資器材等の配備支援 ※日本財団助成事業

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパーボード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	75
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパーボード	25
ジュニア教室用ポップアップバナー	5
ジュニアテキスト	4,500
水辺の安全啓発クリアファイル	8,478
ライフセービングサポーター修了証 BLS 編	2,585
ライフセービングサポーター修了証 WS 編	6,906

(3) 青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	会場	内容	参加数
11月21日	オンライン	新入生交流会	21 大学 46 名
2月27日	オンライン	リーダーズキャンプ	33 大学 50 名

(4) 「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会 ※日本財団助成事業

日程	会場	参加数
10月17日	片貝海岸（千葉県九十九里町）	・3 チーム 18 名 ・スタッフ他 74 名
10月24日	若狭和田海岸（福井県高浜町）	・2 チーム 12 名 ・スタッフ他 63 名
12月5日	青島海岸（宮崎県宮崎市）	・4 チーム 24 名 ・スタッフ他 67 名
12月11日	吉佐美大浜海岸（静岡県下田市）	・10 チーム 60 名 ・スタッフ他 86 名
12月18日	和田長浜海岸（神奈川県三浦市）	・15 チーム 90 名 ・スタッフ他 124 名

■スキルアップ研修会

日程	内容	会場	参加数
12月5日	サーフトレーニングクリニック	青島海岸（宮崎県宮崎市）	11名
2月23日	サーフトレーニングクリニック	片瀬西浜海岸（神奈川県藤沢市）	5名
3月10日	サーフトレーニングクリニック	横浜海の公園（神奈川県横浜市）	8名
3月26日	サーフトレーニングクリニック	蓮沼海岸（千葉県山武市）	荒天延期

(5) インフレータブルレスキューボート（IRB*）に関する消防向け教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等の開催 *Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意

浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優位である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■IRB を用いた救助技術講習会 ※日本財団助成事業

日程	参加地域消防	参加数
6月19-20日	鹿児島県始良市消防本部	24名
7月10-11日	神奈川県横浜市鶴見消防署	35名
7月15-16日	千葉県匝瑳市横芝光町消防組合	19名

4. 環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

■ビーチクリーン活動

主な日程	会場	主な内容
7月1日～8月31日	各地の海水浴場等（約100か所）	ビーチクリーン活動

■ビーチクリーン活動及び飲酒での水難事故撲滅推進

実施方法	主な内容
映像によるキャンペーン	飲酒による水難事故の撲滅と飲酒マナーの向上 「飲んだら泳がないキャンペーン」

< 4 > 競技推進事業

(事業実施の背景)

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながるのである。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア（小学生）、ユース（中学生/高校生）、学生、社会人など幅広い。

1. 主催競技会の開催

年間を通じてプールや海岸等で競技大会を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止とした。

開催日	大会名	参加数	会場
5月29日～30日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（ビーチ）	21チーム276名	横浜海の公園（神奈川県）
6月12日～13日	第34回全日本種目別選手権	中止	若狭和田ビーチ（福井県）
9月12日	第21回オーシャンサーフチャレンジ in 白浜	中止	白良浜海水浴場（和歌山県）
9月24日～25日	三洋インターナショナルカップ2021	中止	シーサイドももち（福岡県）
10月2日～3日	第36回全日本学生選手権	30チーム487名	御宿海岸（千葉県）
10月9日～10日	第47回全日本選手権	43チーム555名	片瀬西浜海岸（神奈川県）
10月16日～17日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（サーフ）	22チーム362名	外浦海岸（静岡県）
10月30日～31日	第34回全日本プール競技選手権	40チーム352名	静岡県富士水泳場（静岡県）
12月5日	第1回全日本SERC選手権	17チーム68名	金田スイミングクラブ立飛 （東京都）
	第1回全日本学生SERC選手権	12チーム48名	
1月29日～30日	第13回全日本学生プール競技選手権	43チーム457名	静岡県立水泳場（静岡県）
2月19日～20日	全日本ジュニア/ユース/マスターズ（プール）	19チーム182名	世田谷プール（東京都）

2. 選手強化等事業 ※協賛：(株)三洋物産/ (株)三洋販売

ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

(1) 強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月18日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
4月25日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
5月8日	HPT-IRB	下田外浦海岸（静岡県）	強化合宿
6月19-20日	全体	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿

7月4日	HPT-A, B	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
8月21-22日	HPT-A, B, C	国際武道大学・岩井海岸・館山市民プール（千葉県）	強化合宿
9月4日	HPT-IRB	オンライン	座学研修
10月16日	HPT-A, B, C	スイムピア奈良（奈良県）	ワールドゲームズ代表候補選考会
10月29日	HPT-A, B, C	静岡県富士水泳場	ワールドゲームズ記録会
11月3日	HPT スタッフ	AP 浜松町（東京都）	言語技術セミナー
11月13日	HPT スタッフ	AP 浜松町（東京都）	言語技術セミナー ビジネスシミュレーションセミナー
11月27-28日	全体	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
12月11-12日	全体	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
1月15日	HPT-A, B, C	日環アリーナ栃木（栃木県）	強化合宿
1月16日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
1月22日	HPT-IRB	オンライン	座学研修
2月19-20日	HPT-IRB	相良海岸（静岡県）	強化合宿
2月26-27日	HPT-A, B, C	国際武道大学（千葉県）	強化合宿
3月19-20日	HPT-A, B, C	国際武道大学・御宿海岸（千葉県）	強化合宿
3月19-20日	HPT-IRB	相良海岸（静岡県）	強化合宿

(2) 国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

大会名	大会期間	会場
三洋インターナショナルカップ	中止（9月24日～25日）	シーサイドももち（福岡県）

3. スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
9月27日	福岡市立西新小学校5年生	福岡市立西新小学校（福岡県） ※リモートで実施	学校交流プログラム
12月5日	高校生競技者	金田スイミングクラブ立川立飛（東京都）	SERC 競技の普及向上

4. ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
6月20日	アンチ・ドーピング研修会・面談 (御宿海岸)	HPT-A, B, C	8名
8月18日	アンチ・ドーピング研修会・面談 ※リモートで実施	HPT-A, B, C	4名
10月9-10日	アウトリーチ活動 (片瀬西浜海岸)	第47回全日本選手権 参加者	21名
10月30-31日	アウトリーチ活動 (静岡県富士水泳場)	第34回全日本プール競技選手権 参加者	31名
10月30-31日	ドーピング検査 (静岡県富士水泳場)	第34回全日本プール競技選手権 参加者	実施人数 非公開
12月18日	アウトリーチ活動 (富士見市民総合体育館)	第32回全日本セパタクロー選手権大会 参加者 ※セパタクロー協会と協同	31名

< 5 > 国際交流事業

(事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟（ILS）への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILSの戦略プランの遂行に貢献する。

【トピック】

2021年4月の国際連合・第75回総会において、世界的な溺水防止に関する決議が採択された。溺水防止にかかわる歴史的な決議は国連加盟国の積極的な行動をもとめるものであり、今後の国内の溺水防止に向けた動きに期待が向けられている。また、毎年7月25日をWorld Drowning Prevention Day 世界溺水防止デーと宣言した。国内における情報の発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

国際ライフセービング連盟（ILS）役員及び専門委員会等

- (1) 中川容子；ILS 理事、ILS アジア環太平洋地区理事、ILS Drowning Prevention Commission
- (2) 石川仁憲；ILS Rescue Commission
- (3) 宮部周作；ILS Sports Commission、Multi-Sport Games Committee Chair
- (4) 木村智美；Multi-Sport Games Committee
- (5) 栗栖清浩；Lifesaving Sport Regulations Committee
- (6) 青木将展；Future of Lifesaving Sport Committee

(7) 泉田昌美 ; Lifesaving Sport for All Committee

(8) 出木谷啓太 ; Athletes Commission

中川容子 ; ILS 理事、アジア環太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission		
会議区分	日程	備考
ILS理事会	10/9	オンライン会議
ILSアジア太平洋地区理事会	8/19	オンライン会議
Drowning Prevention Commission	5/10, 6/1, 7/6, 8/3, 9/7 , 11/2, 1/11, 3/8	オンライン会議
Child Drowning Prevention Committee	8/11, 9/21, 1/10, 2/23	オンライン会議
その他		
WHO関連(日本の活動紹介撮影@宮崎)	6/22, 6/26	オンライン会議
世界溺水防止デー関連	7/12, 7/22, 7/28	オンライン会議
国際溺水防止会議10周年	5/13	オンライン会議
International Women' s Day Celebration - Women in Drowning	3/10	オンライン会議

■石川仁憲 ; ILS Rescue Commission		
■主な議案 新たな position statements (New Technology 等) の提案、既存 position statements の改訂、flood disaster 対応、対外連携等		
日程	会議名	備考
4/30	Rescue Operations Committee Meeting	オンライン会議
6/24	Rescue Operations Committee Meeting	オンライン会議
9/2	Rescue Commission Meeting	オンライン会議
9/16	Rescue Operations Committee Meeting	オンライン会議
11/18	Rescue Operations Committee Meeting	オンライン会議
12/2	Rescue Commission Meeting	欠席
1/20	Rescue Operations Committee Meeting	オンライン会議
3/17	Rescue Operations Committee Meeting	欠席
3/31	Rescue Commission Meeting	オンライン会議

宮部周作 ; ILS Sports Commission、Multi-Sport Games Committee Chair		
日程	会議名	備考
5/22	ILS Sport Commission Meeting	オンライン会議
6/27	Multi Sport Games Committee Meeting	オンライン会議
11/13	IL Sport Commission Meeting	オンライン会議
2/11	ILS Multi Sport Games Committee	オンライン会議
その他		

9/29	JOC 強化部意見交換/アジア競技会採用に向けての助言	対面会議
------	-----------------------------	------

木村智美 ; Multi-Sport Games Committee		
<p>■主な議案</p> <p>五輪に競技登録されるように働きかける取り組み、各大陸における五輪に繋がる重要な競技大会の調査、関係者への働きかけ等</p>		
日程	会議名	備考
5/22	ILS Sports Commission Meeting	オンライン会議
6/27	Multi Sport Games Committee Meeting	オンライン会議
11/13	IL Sport Commission Meeting	オンライン会議

栗栖清浩 ; Lifesaving Sport Regulations Committee		
<p>■主な議案</p> <p>ILS 競技規則改定審議、ILS 短水路プール競技規則審議、他</p>		
日程	会議名	備考
5/3-5/14	ILS manual anomaie	メール審議
5/29	Lifesaving Sport Rules & Regulations Committee	オンライン会議
5/31-6/1	ILS Sport Commission Meeting	メール審議
6/17-9/2	Sport Regulations Committee Project	メール審議
7/12-7/18	ILS Competition Rule Book Draft Revision	メール審議
7/26-7/28	Dry SERC	メール審議
7/26-11/24	ILS Competition Rule Book Revision	メール審議
9/16-9/17	Signalling the start for the hearing impaired	メール審議
9/28-10/4	LWC rules	メール審議
1/7-2/10	ILS World Records Eligibility	メール審議
1/28-2/3	Rule Query	メール審議
2/8-3/6	ILS Competition Rule Book March 2022 Update	メール審議

■泉田昌美 ; LS Sports Commission Lifesaving Sport for All Committee		
<p>■主な議案</p> <p>ジェンダーや障害を持つ人たちの競技/活動について。ニュージーランドやオーストラリアの障害を持つ子供たちの競技会について。</p>		
日程	会議名	備考
5/22	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
6/22	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
9/18	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
11/13	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
12/3	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
2/25	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議

3/6	Sport for All Committee Meeting	オンライン会議
-----	---------------------------------	---------

出木谷啓太 ; Athletes Commission		
■主な議案 委員会活動方針、ライフセービングアスリートとしてどう世界に貢献していくか等。		
日程	会議名	備考
8/29	Athletes Commission	オンライン会議

< 6 > 広報活動事業

1. SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー	ユーザー数
公式 JLA サイト	279,675	150,432
公式 LIFESAVING サイト	611,484	123,850

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	5,381
インスタグラム	2,605

2. 広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	6

< 7 > その他の事業

1. 関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程	内容
都道府県協会 代表者会議	12月12日	都道府県協会代表者との意見交換会（オンライン）

連携団体	連携事業等
気象庁	(新規)津波旗普及感謝状贈呈(気象庁長官) (新規)津波旗講演会/講師派遣 (新規)津波旗啓発ポスター、リーフレット制作協力 (継続)津波旗ポスター制作協力 (継続)津波旗デモ映像 (継続)気象庁との水難事故防止・防災に関する協定(2020-12/24)
海上保安庁	(継続)「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」委嘱 (継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」企画 (終了)「新たな海上安全指導員制度構築に関する委員会」委嘱
消費者庁	(継続)「消費者安全調査委員会専門委員」委嘱
スポーツ庁	(新規)「水泳等の事故防止について(通知)」 (新規) Water Safety Week 2021 長官対談 (継続)「スポーツ施設等安全管理講習会指導員派遣協力(通知)」 (継続)ICT教育コンテンツ「e-Lifesaving」情報提供
日本水泳連盟	(新規)東京オリパラ OWS 種目の安全管理協力 (継続)日本水泳連盟主催 OWS 競技会及び国民体育大会等の安全担当員及びライフセーバー派遣
日本トライアスロン連合	(新規)東京オリパラ スイム部門の安全管理協力 (継続)日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会等への安全担当員及びライフセーバー派遣
日本サーフィン連盟	(継続)中止/日本サーフィン連盟主催「サーフスクール」指導員派遣
日本マスターズ水泳協会	(継続)日本マスターズ水泳協会主催競技会へのライフセーバー派遣
日本ワールドゲームズ協会	(継続)JLA 事務局長が監事として参画
日本救護救急学会	(継続)JLA メディカルダイレクター他役員が理事として参画

民間救命士統括体制認定機構	(継続)JLA 役員等が理事、統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として参画
吉川慎之介記念基金	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力
河川財団	(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力
御宿町 (千葉県)	(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2019年運用開始)
宮崎市 (宮崎県)	(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2020年運用開始)
高浜町 (福井県)	(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施(2021年運用開始)
鎌倉市 (神奈川県)	(新規)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入準備
神奈川県	(継続)海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る「連携と協力に関する包括協定」締結(2020-6/19)
国際武道大学	(継続)「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結(2021-4/1)

2. 認定海水浴場認証事業 ※日本財団助成事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。

	実施箇所
新規 8 箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・北条海岸 (千葉県館山市) ・逗子海岸 (神奈川県逗子市) ・白浜中央海岸 (静岡県下田市) ・白浜大浜海岸 (静岡県下田市) ・外浦海岸 (静岡県下田市) ・多々戸海岸 (静岡県下田市) ・入田浜海岸 (静岡県下田市) ・吉佐美大浜 (静岡県下田市)
更新 3 箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・若狭和田海岸 (福井県高浜町) ・須磨海岸 (兵庫県神戸市) ・本須賀海岸 (千葉県山武市)

【その他の事業】

(事業実施の背景)

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

(事業の目的)

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

(事業の内容)

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

< 1 > 認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
- (2) プールライフガーディングコース
- (3) IRB コース *Inflatable Rescue Boat・・・救助用ボートの意
- (4) ジュニアエデュケーションコース
- (5) RWC コース *Rescue Water Craft・・・救助用水上バイクの意

さらに最上位資格として下記の資格がある。

- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター(指導員)

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS (CPR+AED) コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15歳以上でなければ資格を取得できない。

- (1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーライフセーバー及びアドバンスサー

フライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRBクルー及びIRBドライバー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) RWC コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーもしくはアドバンスサーフライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はRWCクルー資格及びRWC資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格（指導員資格について）

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRB アシスタントインストラクター
- ・IRB インストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・RWC アシスタントインストラクター
- ・RWC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。

■認定ライフセーバー資格認定

資格名	発行数	開催数
ベーシックサーフライフセーバー	657	66
アドバンスサーフライフセーバー	102	16
IRB クルー	68	11
IRB ドライバー	51	9
リーダー	36	5

プールライフガード	78	14
アドバンスプールライフガード	22	6
PWC クルー	28	2
PWC ドライバー	14	2
資格更新	99	23
復活講習	103	39
指導員（新規）	95	18
指導員（継続）	390	17
合計	1743	228

■BLS 指導員養成講習会

日程	会場	合格者
5月1日、2日、3日、4日	多摩市民館（神奈川県川崎市）	4
11月6日、7日、13日、14日	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）	11
12月18日、19日、25日、26日	三原リージョンプラザ（広島県三原市）	2
1月9日、10日、15日、16日	静岡市清水市民活動センター他（静岡県静岡市）	8
1月13日、14日、15日、16日	いわき SLSC クラブハウス（福島県いわき市）	6
2月11日、12日、13日、14日	平得公民館（沖縄県石垣市）	7
合計		38

■ウォーターセーフティ指導員養成講習会

日程	会場	合格者
12月18日、19日	きらら博記念公園水泳プール（山口県山口市）	2
1月16日、23日	スウィン北本スイミングスクール（埼玉県北本市）	6
1月22日、23日	三原リージョンプラザ（広島県三原市）	2
2月5日、6日	ならはスカイアリーナ屋内プール（福島県双葉郡）	6
2月21日、22日	マリンスパ熱海（静岡県熱海市）	7
3月5日、6日	海邦スポーツクラブ（沖縄県石垣市）	7
合計		30

■サーフライフセービング指導員養成講習会

日程	会場	合格者
11月5日、6日、7日	さがらサンビーチ（静岡県牧之原市）	7
合計		7

2. 認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

ライフセービング競技会等で審判を行うための講習会を開催し、C級審判員の資格を認定する。さらに審判員に対する研修会を実施する。

審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

■C級認定審判員養成講習会

日程	会場	合格者
4月24日	オンライン	24
4月25日	オンライン	18
6月19日	オンライン	23
6月20日	オンライン	12
7月22日	オンライン	14
7月23日	オンライン	7
9月5日	川崎市立稲田中学校	8
12月18日	オンライン	43
12月19日	オンライン	33
3月26日	オンライン	43
3月27日	オンライン	46
合計		271

■審判員研修会

日程	会場	参加数
4月25日	オンライン	中止
2月23日	オンライン	21
合計		29

指導員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の指導員資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

その他の資格及び審判員資格：「更新」認定基準

[認定基準]

- ① 公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ② 水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

(以上)